

事業番号	4	事業名等	共同バス運行事業（「津山・西川線」、「津山・柵原線」、「津山・富線」）	
仕分け結果	市が実施（要改善）		担当課	産業政策課

仕分けの論点	利用者ニーズを把握しての利便性の向上
--------	--------------------

今後の方針	<p>【改善見直し】</p> <p>「津山・富線」については、他の路線でカバーでき、市民の利便性に影響がないので、協議会からの脱退について平成 24 年度協議会に提案し、平成 25 年度実施を目指す。</p> <p>他の 2 路線（「津山・西川線」、「津山・柵原線」）については、折返し運行等でより利便性を高め、かつ費用負担を見直して経費削減を図っていく。現在、取組を進めているごんごバス等の見直し状況を見ながら、平成 24 年度より協議を開始し、平成 25 年度協議会に提案し、平成 26 年度実施を目指す。</p>
-------	--

方針策定理由	<p>事業仕分けにおいては、公共交通は必要な施策であり要改善(改善して継続)という評価を受けた。指摘の趣旨は当然のことでもあり、今回 3 年計画で取組んでいる公共交通の再編は指摘の趣旨に沿った内容で、公共交通の維持・継続に取り組んでいるものである。重複等を廃して効率的再編をし(昨年東循環線を見直し、加茂・勝北ごんごを折返し運行として重複を廃止し増便した。路線の重複は客を奪い合う結果となり公費負担が増え、また、旅行客等にとっては理解しづらい面がある、一方で必然的に乗継が発生することになる)、また、単なる経費削減では路線廃止等利便性の低下につながるため、工夫して利便性を向上し(例えば支所間ごんごを折返しにすることで増便したことにより、所用が早く終われば早く帰ること・朝便に遅れても次の便を利用できること、また、ゆっくりできなかっためぐみ荘の利用で時間の余裕ができたこと、さらに阿波温泉の利用も可能となったこと等)利用者を増やして利用収入を増やすことで今後の厳しい財政環境下への対応を目指している。</p> <p>「津山・富線」からの脱退については、市民の利便性に影響はなく(他の路線(石越線・院庄循環線等)で十分賄える)、また、実態は津山市民の利用はほとんどなく鏡野町のスクールバスであり、これに係る負担金・財源を他の津山市の公共交通の再編に有効活用することを目的とするものである。これは提言の趣旨に沿うものであるので予定どおり推進する。平成 24 年度協議会で提案し、平成 25 年度実施を目指す。</p> <p>他の 2 路線（「津山・西川線」、「津山・柵原線」）についても、折返し運行等でより利便性を高め(美咲町からの乗入をイオン・中央病院、マルナカ・第一病院での折返し運行とすることで運行距離が短くなり同等の経費で増便でき美咲町民の利便性が向上する)、かつ費用負担を見直して(津山市内の走行が少なくなり津山市の費用負担は少なくなる)経費削減を図っていく。市内再編の状況をみながら、平成 24 年度より事務的協議を開始し、平成 25 年度協議会提案、平成 26 年度実施を目指す。</p>
--------	---